



全職員
一丸となって
病院機能の向上に
努めます
武内 俊 院長

市民の皆さんの念願であった市立総合病院の増改築が竣工を迎え、療養環境が大幅に改善されました。

医療の進歩は日進月歩です。新しい診断方法や治療法が開発されると共に、これまでは医療の担い手が主として医師個人でありましたが、医師や看護師以外の薬剤師や臨床検査技師などの「メディカルスタッフ」も加わるチーム医療へと変わりつつあります。分かりやすくいえば「一人の患者さんを皆で支援しながら、より効率良く社会復帰を達成して行こう」との考えと言えます。この視点から、地域での医療は当院だけで提供するのではなく、地域で開業されている各医院や各施設などと連携し、市民の皆さんの協力を得ながら、より適切で効率的な医療提供体制を構築して行くことがこれからの課題です。

全国的に医師、看護師の不足が報道されていますが、特に県北地域は厳しい状況です。そのようななか、医療資源(医師、看護師、メディカルスタッフなど)を有効に活用しながら市民の皆さんの健康を守って行くためには、比較的重症な患者さんを迅速に治療できるような役割を当院が担って行く必要があります。比較的軽い症状や、安定した慢性の病気などは、ご近所の掛かり付け医でまず診断をしていただき、必要であれば当院へご紹介していただくことが良いと思います。幸いにも、大館市では既に開業の先生たちと総合病院との交流は頻ぱんに行われ、患者さんの紹介や逆紹介がなされています。当院では、紹介状を持参された患者さんは、待ち時間が少なくなるように配慮していますから、受診の際には紹介状の持参をお勧めします。

一方、標準的な医療を提供するためには、新しい高額な医療機器の導入が欠かせません。経営的には大変ですが、より良い医療を市民の皆さんへ提供するために必要な投資であることをご理解いただきたいと思います。

市立総合病院を会社に例えると、株主は市民の皆さんです。改善された医療環境の下、皆さんの健康を守る社員として、職員はこれからも更に研究を積み、病院機能の向上に努めてまいりますので、暖かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



利益の出にくい部門を抱えています

市立総合病院は、二次医療機関として急性期医療を中心に地域の中核病院の役割を担っています。また、自治体病院として、結核医療、救急医療、周産期医療、小児医療、精神医療、リハビリテーション医療など利益の出にくい部門も地域医療確保の

少しでも
赤字を減らします

小林 雪 夫 事務局長

ためその役割を担っていかねばなりません。当院ばかりでなく、こうした不採算部門を抱える全国の自治体病院の約8割が赤字です。

また、当院は、診療以外にも次代の医師や看護師などを育成する役割も担っています。弘前大学や秋田大学の医学部の実習、秋田看護福祉大学や医師会付属看護学院の看護実習、そのほかにも薬剤師、栄養士、医療事務等々たくさんの実習生を受け入れています。さらに、各種抛

点病院救急告示、災害拠点、エイズ治療中核拠点、地域周産期母子医療センターなどの認定や指定を受けています。

診療報酬が下げられています

診療を行った対価として支払われる診療報酬(料金)は、国が2年ごとに改定しますが、最近では下げられています。

赤字を減らすために

以上のように、いろいろな要因があり、簡単には、赤字から黒字へ脱却することは難しいものと考えますが、今後も職員一丸となって、経費の節減などに取り組み、少しでも赤字を減らすよう努力していきます。

もっともつと病院と
医師を理解しませんか

新しくなった総合病院。外から見ることはあっても、実際に中を見ることはなかったため、その奇麗さと明るさに驚きました。一見の価値ありです。しかし、取材を進めて行くに従って、その奇麗な外観とは違い、多くの問題を抱えていることが分かりました。

診療報酬が改定され、以前と同じ治療を行っても報酬が減額されたり、採算が悪い部門でも抱えていかねばならなかったりということを初めて知りました。また、テレビや新聞などでも

報道されていますが、医師が不足していることや、そのために医師が連続勤務をしていることなど、数々の大きな問題を抱えていることも知りました。

総合病院は、私たちみんなが頼りにしている、おらほの病院です。もし、千葉県の銚子市立総合病院、このように、医師が引き揚げ、赤字だからと休止したら大変なことになります。

私たちの健康を守り続ける病院を、守っていくのは私たちです。医師は大変な勤務をしているのだから、私たちもそれを理解することが必要だと思います。病院の経営状態や医師の勤務実態などを、身近な問題として私たちも考えてみませんか。